

二中の木

学校報
第2号
H29/05/19



能代市立
能代第二中学校
TEL52-5138

◇二中創立七十周年記念行事に向け◇ さらなる飛躍を決意して！



昭和22年に創立された能代第二中学校。翌年には校歌が制定されています。昭和24年の大火で分校を焼失してしまいましたが、やがて現在の場所に旧校舎が完成します。その時の様子が、秋田さきがけ新聞平成27年4月21日付『同窓生への取材の形で掲載されています。寄せ集めの材料で作った校舎には、新しい感じが全くしなかった。それでも校歌を歌うと、ここから次の歴史を刻むぞという気持ちになった。校舎の引越越し初日に教室から見上げた空は、日の光青空にみながりわたりと、この歌詞の通りだった。』と言ったものです。

能代第二中学校で過ごす日々が長くなればなるほど、二中への熱い思いをもった方々、二中を愛してやまない人々と触れ合う機会が多くなってきました。その方々のためにも、二中の今を過ごしている我々のためにも、伝統を噛み締め将来を語り合う機会が必要なのだと考えます。

さて、節目の年度を迎えてどうしても紹介したい方がいます。昨年度末、生徒会誌『百金』に私が寄稿した文章です。二中に関わった方のある思いを記念行事準備のスタートにしたいと思っただけです。

「二中室」で見つけた写真

同窓会総会が開かれると言っているので、二中のこれまでの歩みが展示してあるわが「二中室」で調べ物をしました。無造作に開いた昭和四十年代の古びたアルバムの中のページに、ある先生の



た。その輝きに惹き付けられた私は、

若かった頃の白黒写真を見付けました。二中祭のバザーで撮られたものだろうと思います。そこには、凛々しいスーツ姿に青年教師の明るさに満ちあふれた笑顔が写し出されています。

写真を校長室に持ち帰り懐かしく拝見してしまいました。その方の訃報を聞いた数日後のことでしたので、こんなこともあるんだなと不思議な心持ちでした。

一本の電話から

程なくして、写真を眺めていた私に一本の電話が入ります。父が病の床にあって、長い間二中に行かなかったことを残念がっていました。



今日これから斎場へ向かう時、寄らせていただけないでしょうか。との息子さんからの電話でした。



十一月下旬の粉雪混じりの冷たい北風の中、私と数名の職員が一緒に玄関前で、棺を載せた車の到着を待っていました。やがて車は現れ、中から遺影を抱いた息子さんが降りてきました。遺影は、若い頃と変わらなないあの笑顔のままでした。そして、息子さんは確かめるかのようにゆっくりと、穏やかな視線を校舎と私達に向け、深々とお辞儀をし車に戻っていききました。色を失った冬の空の向こうには、火力発電所の一筋の白い煙が北風に強く押し流され、名残のクラクションも、かき消されたかのような音をなび

高橋文夫校長先生

かせているのです。

その方は、高橋文夫先生とおっしゃいます。平成四年度から四年間、第十五代校長としても勤務していらっしやいました。まだ三十代だった私



が、二中でお世話になった校長先生です。当時の私達教職員にとって、高橋校長先生が行動を通して時折見せてくれる心構えや、満面の笑顔で話してくれる教え子とのエピソードに触れることが、とても楽しみでした。そんな思い出の一つです。

二中を思う気持ち

ある日の職員会議で、卒業式を担当する職員からその計画の提案がありました。突然、生徒会の顧問から、新生徒会の役員達から、自分たちの手で先輩を送り出したいとの声が出ています。進行を生徒にやらせてはもらえないでしょうか。という発言。卒業式は学校行事。生徒の進行ではだめ。」という意見が出される中、後輩が先輩に対し、心を込めて送りたいとの気持ちを遮る理



由などありません。伝統校にふさわしい卒業式です。」との校長先生からのお話がありました。

式当日、生徒会が式を進行していました。卒業生と在校生が、二中への熱い思いを交流させる場面もあり、それはそれは感動的な卒業式となったのでした。

高橋校長先生が第20集「白金」に寄せた文章には、二中は、歴史や伝統と栄光をもつ学校ですが、改めながら前進させなければならぬこともあります。しかし、私にとって嬉しいのは、皆さんの心に二中を自分たちの考えや行動で前進させようとする意思、校歌にもある自治の心が根付いたことです。」とあります。

生徒会も思いを引き継ぎ

今年度、私自身にとっても嬉しいことが数多くありました。例えば、一月の役員任命式で、生徒会行事を経験するたびにたくましく成長した三年生や、緊張感と志をもって引き継ごうとする後輩の様子に、常により良く変わる。前進しよう。との二中学生の意気込みを見



たことです。今回改めて、生徒会の皆さんの頑張りを振り返ることができました。

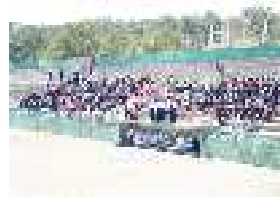
また、故高橋文夫先生の校長としての、また、先生の二中卒業生としての熱い思いを見返し、私の励みとするこ

とができました。寄稿の機会に感謝して終わります。



あらためて 「志高く」

能代第二中学校区の学校評議員の方々（二中、淳南小、第四小）七名と各



校長先生にお集まりいただいた、今年度第一回目の会議をこの17日（水）に開きました。各校の児童生徒の姿、取組の確かさを高く評価いただきとともに、励ましい言葉も頂戴いたしました。



また、翌18日（金）には、PTA全校委員会が開催され、生徒の安心安全のための活動、よりよく育つための協力のあり方などを視点に熱心に協議してもらいました。

この二つの会議を通して感じたことは、地域や保護者の方々に支えられている、大きな期待を寄せられている。」と言ったことです。同時に、地域や支えてくれる人々に二中学生にできることは何なのだろうかといった宿題も頂戴したのだと思います。

二中学生が元気に活躍している姿を見ていただく、地域や家庭の「員だ」という思いをもち行動することで、その方々に「地域に二中があつて良かった。」の思いをもっていただくことが大切だと思います。

『発信』が重要です。言葉による発信も大切ですが、むしろ行動や態度による発信が多くを伝える、伝えてしまうことがあります。○自分をよく見せるための形式的なあいさつ、○あいさつされることは当たり前だが自分からはしない、○ルールは破ってもよいのだという行動による後輩へのメッセージ、○他人を思いやることができないと受け取られる言葉や表情など...、知らずに意図する人はいないはず。負の行動をとってしまったはいないでしょうか。発信されてしまったメッセージは、なかなか取り消せないものです。応援される二中学生であり続けたいと思います。

◇めざす生徒像◇

- (1) 『自主』
自らを鍛え、志を打ち立てようとする生徒
- (2) 『不屈』
課題に気付き、乗り越えようとする生徒
- (3) 『友愛』
仲間との関わりに幸いを感じ、仲間の役に立ちたいと願う生徒



【終】